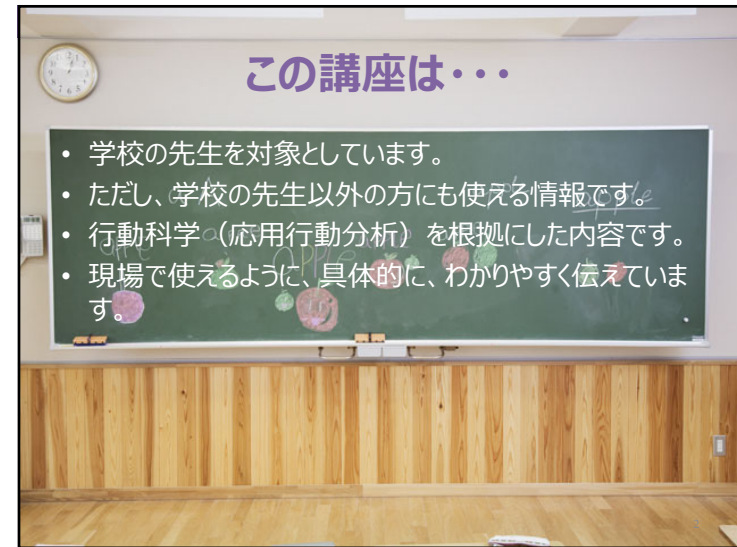
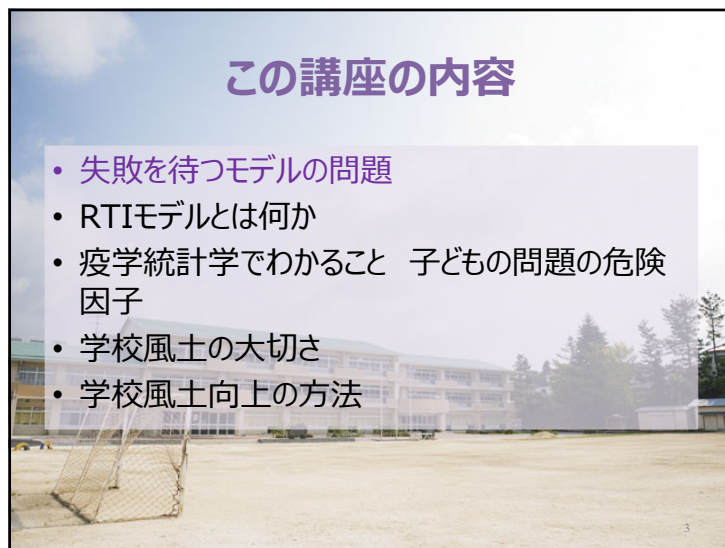




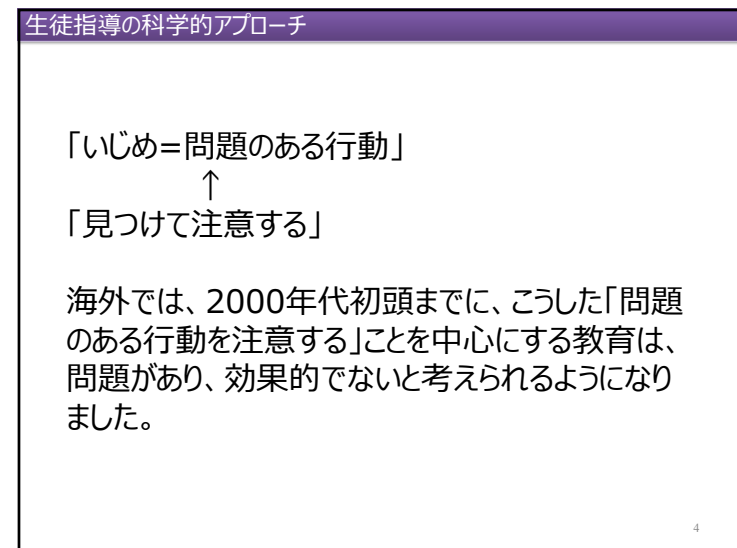
1



2



3



4

生徒指導の科学的アプローチ

「問題のある行動を注意する」
＝「子どもの失敗を待つこと」

5

5

この講座の内容

- 失敗を待つモデルの問題
- RTIモデルとは何か
- 疫学統計学でわかること 子どもの問題の危険因子
- 学校風土の大切さ
- 学校風土向上の方法

6

6

生徒指導の科学的アプローチ

そこで・・・

- 「子どもの失敗を待つモデル」である Discrepancy Modelに変わって、RTIモデルが取り入れることになりました。
- このRTIモデル、既に私たちの社会において、「問題解決」のための包括的モデルとして知られ、使われています。

7

7

生徒指導の科学的アプローチ

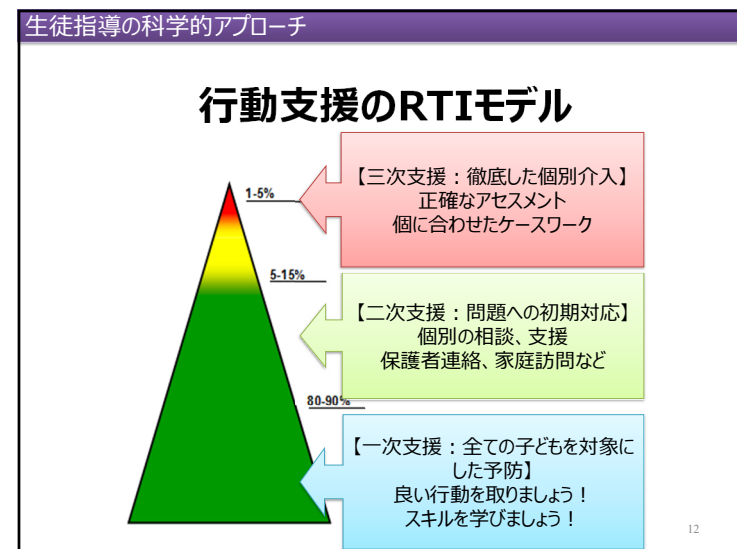
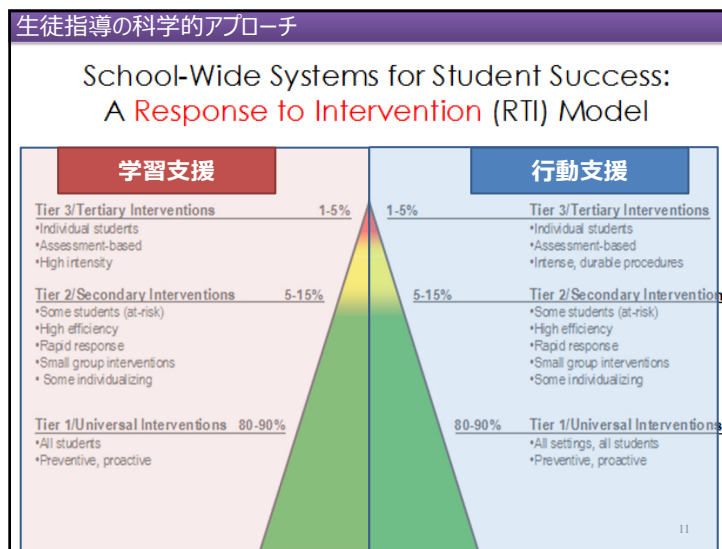
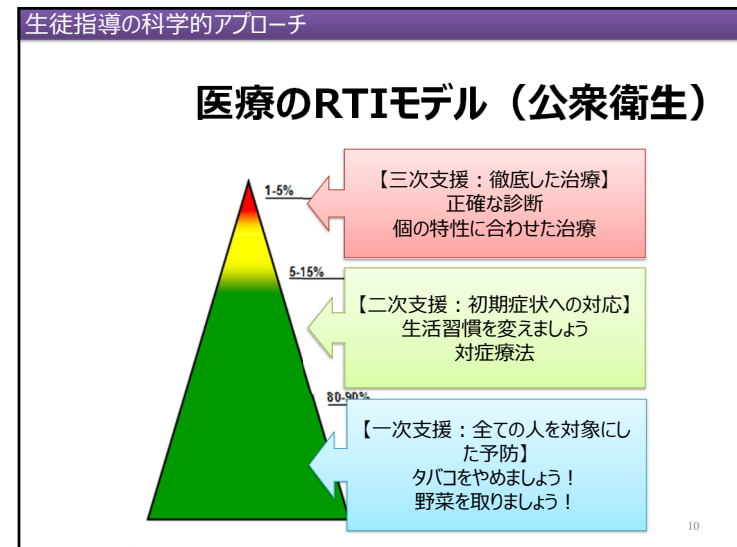
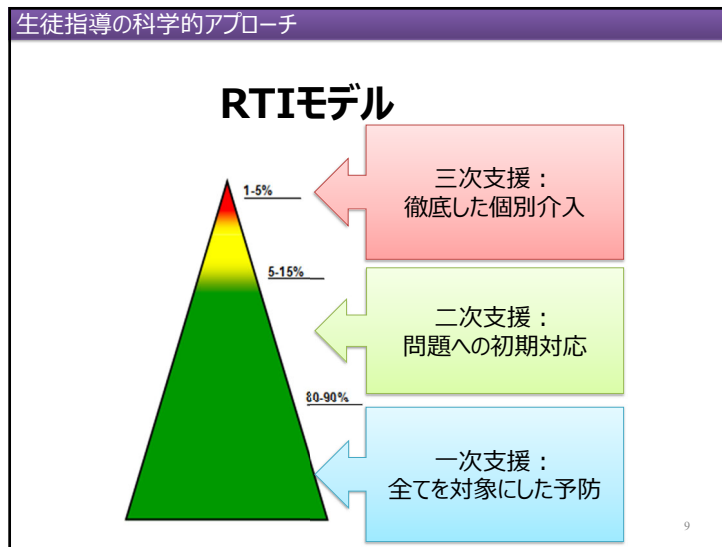
Response To Intervention Model

- Response to Interventionとは「支援・介入への反応」を意味する。
- このModelは、日本にはLD支援として入ってきたが（例えば、T式ひらがな音読支援、MIM）、実は特別支援全体のデザインであり、学習支援だけでなく、行動支援でも使われている。

※ MIMとは、Multilayer Instruction Modelの略で、多層指導モデルを意味する。国立特別支援教育総合研究所主任研究員、海津亜希子により開発された。

8

8



生徒指導の科学的アプローチ

質の高い一次支援

- **発達障がいを含む**全ての子どもにとって**良い一次支援**とは何だろうか？
- 学習支援、行動支援について、「**質が高い**」と言うことは簡単だが、**どう質を担保すれば良いのだろうか？**

13

13

生徒指導の科学的アプローチ

一次支援の難しさ

- 一次支援は、問題を起こさない（予防）が目的となる。
- 「問題が解決する」という具体的な結果を伴うことに比べ、問題がない状態を保持することは、結果が見えにくく、評価がしにくいという特徴を持つ。
- さらに、「問題を解決する」ということに比べ、「どの方法が効果があったのか」もしくは「どうすれば、問題が起きない状態を保持できるのか」を知ることが難しい。
- このようなときに、**疫学統計学**が使えます。



14

14

生徒指導の科学的アプローチ

疫学統計学とは

- 個ではなく、**群**を扱います。
- ある特徴を持つ群とそうでない群について、データを集め、その差が何であるかを**統計学**を使って解析します。
- **因果関係**の証明を行います。

例えば、喫煙が生活習慣病のリスクをあげることは有名ですが、これは疫学統計学の研究で明らかにされています。



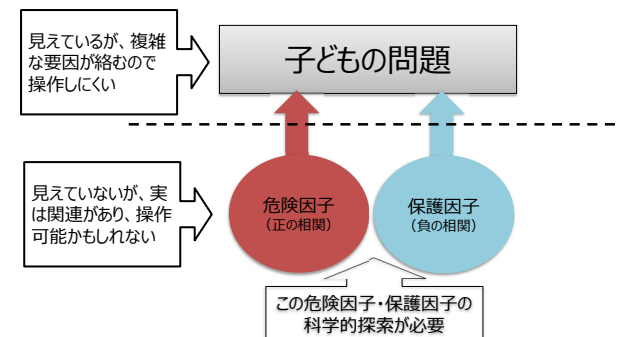
15

15

生徒指導の科学的アプローチ

つまり

子どもの問題を減らそうとすると、その危険因子と保護因子を明らかにできればいいということになります。



16

16

この講座の内容

- 失敗を待つモデルの問題
- RTIモデルとは何か
- 疫学統計学でわかること 子どもの問題の危険因子
- 学校風土の大切さ
- 学校風土向上の方法

17

生徒指導の科学的アプローチ



文部科学省委託事業

大阪大学をはじめとした10大学コンソーシアムが、連携教育委員会と協力して行った事業第1期（2014～2019年度）ではじめ等の子どもの行動についての研究を行った。

18

生徒指導の科学的アプローチ

関連する要因	いじめ被害 (Victim)	いじめ加害 (Bully)	いじめ被害・加害 (Bully/Victim)
性別 (男子)	1.01	1.28	2.95**
学年	0.81**	0.77***	0.63***
国籍、言語	2.62*	2.19	3.89*
世帯年収	1.00	1.02	0.93
母の年齢	0.94	0.87	0.80*
インターネット使用時間	1.09	1.16	1.23* (1.19)
不安・抑うつ傾向	1.04****	1.02	1.05***
ADHDの診断	3.13* (3.28)	3.26	1.81

カッコ内の数値は学校風土で統制したときのオッズ比。有意差がみられなくなったものを示している。
H27年度はいじめ被害に男子の影響が出ていたが、今回の調査で、男子はいじめ被害・加害の群に入りやすいことが分かった。
➢ 母の年齢が上がると、いじめ被害・加害のリスクは減少する。
➢ 国籍が日本以外か多重国籍、普段話す言葉が日本語以外か多重言語の場合、いじめ被害と被害・加害のリスクは増加する。
➢ 父の年齢、父母の教育歴、一人親家庭、成績、友だちの人数、ASD、知的障がいについては統計学的に有意な差はみられなかった。

19

生徒指導の科学的アプローチ

関連する要因	いじめ被害 (Victim)	いじめ加害 (Bully)	いじめ被害・加害 (Bully/Victim)
欠席日数	1.10	0.98	1.03
遅刻日数	1.19	0.86	1.12
早退日数	1.90**	1.93* (1.77)	1.87
SDQ全体的な困難さ (High need)	2.41****	1.43	3.16*
SDQ行為 (High need)	1.23	1.62	1.74* (1.55)
SDQ多動 (High need)	1.57*	1.07	1.15
SDQ情緒 (High need)	1.96*	1.17	1.82
SDQ仲間 (High need)	2.01****	1.17	1.31
学校風土 (JaSC合計得点)	0.98****	0.98***	0.97****

カッコ内の数値は学校風土で統制したときのオッズ比。有意差がみられなくなったものを示している。
➢ 早退日数が多いほど、いじめ被害群、いじめ加害群のリスクが増加する。
➢ SDQ保護者評価で測定される全体的な困難さ、多動、情緒問題、仲間関係の問題について特別な支援の必要性があると考えられる場合、いじめ被害群のリスクは増加する。
➢ SDQ保護者評価で測定される全体的な困難さ、行為問題について特別な支援の必要性があると考えられる場合、いじめ被害・加害群のリスクは増加する。
➢ 学校風土の評価得点が1点増えるごとに、いじめ被害、加害、被害・加害のリスクは減少する。

20

生徒指導の科学的アプローチ			
関連する要因	登校不安定	関連する要因	登校不安定
性別（男子）	1.37	成績	1.26*
学年	1.02	友だちの人数	0.72*
国籍、言語	3.04*	インターネット使用時間（保護者報告）	1.31* (1.23)
世帯年収	1.30**	自閉スペクトラム症（ASD）	疑い 2.76 診断 4.68*
父の年齢	1.03	ADHD	疑い 4.61** 診断 9.69***
母の年齢	1.14*	知的障がい	疑い 0.40 診断 1.99
父の教育歴	0.99		
母の教育歴	0.96		
一人親家庭（推定）	1.44		

カッコ内の数値は学校風土で統制したときのオッズ比。有意差がみられなくなったものを示している。
 児童生徒の性別、学年、国籍と言語、世帯年収の影響を考慮して（統制して）解析を行った結果である。
 ➤ 自己評価による成績が10点下がると、登校問題のリスクは増加する。
 ➤ 国籍または普段話す言葉が日本（語）以外または両方である場合、登校問題のリスクは増加する。
 ➤ 世帯年収については、0～200、200～400、…のように200万円ずつのカテゴリで尋ねた時、カテゴリが1つ下がる
 と登校問題のリスクは増加する。
 ➤ この他、不安・抑うつ傾向、肥満傾向、児童生徒の報告によるインターネット使用時間については統計学的有意
 差はみられなかった。

21

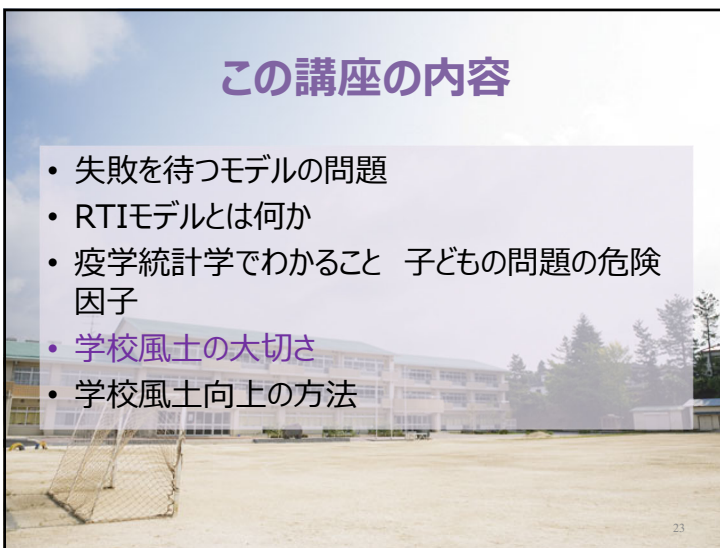
生徒指導の科学的アプローチ			
関連する要因	登校不安定	関連する要因	登校不安定
SDQ全体的な困難さ（High need）	4.00***	いじめ被害	1.90* (1.72)
SDQ行為（High need）	3.21***	学校風土（JaSC合計得点）	0.99***
SDQ情緒（High need）	3.97***	安全（安全、決まり）	0.95***
SDQ多動（High need）	2.85***	学習（授業、心の教育）	0.96*
SDQ仲間関係（High need）	1.36	関係性（児童生徒同士、児童生徒と教師、児童生徒と学校、児童生徒と集団）	0.99***
SDQ向社会性（High need）	0.96	環境（物理的環境、地域・保護者）	0.96

すべて児童生徒の性別、学年、国籍と言語、世帯年収の影響を考慮して（統制して）解析を行った結果である。
 カッコ内の数値は学校風土で統制したときのオッズ比。有意差がみられなくなったものを示している。
 ➤ SDQ保護者評価で、全体的な困難さについて特別な支援の必要性があると考えられる場合、登校問題のリスク
 が増加する。
 ➤ 学校風土の評価得点が1点増えるごとに登校問題のリスクは減少する。
 学校風土の合計得点（最高128点）については、1標準偏差（約22点）減るごとに、登校問題のオッズは
 1.23倍になり、リスクが増加する。
 児童生徒の国籍・言語と、世帯年収については、全ての解析結果で統計学的に有意な効果を示した。

22

この講座の内容

- 失敗を待つモデルの問題
- RTIモデルとは何か
- 疫学統計学でわかること 子どもの問題の危険因子
- 学校風土の大切さ
- 学校風土向上の方法



23

学校風土の影響

A Review of School Climate Research

Thapa, Cohen, Guffey, Higgins-D'Alessandro
 Review of Educational Research 2013

24

生徒指導の科学的アプローチ

206のSchool Climate研究をレビューしたもの

- 学校風土を5つのエリアに分けて考えた。
 - 安全（決まり、身体的安全、社会情緒的安全）
 - 関係性（多様性の尊重、学校との結びつき、社会的支援、リーダーシップ、学校風土認識）
 - 学習・授業（社会情緒、市民教育、学習支援）
 - 学校環境（校内環境、資源、教材、備品）
 - 学校の評価と改善

25

25

生徒指導の科学的アプローチ

学校風土の影響

- 生徒が「安全だと感じることは」、学習面、健康面での発達を強力に促進する（Devine&Cohen, 2007）
- 決まりを守ることを褒めている学校、ルールを守れなかったときのしかり方が管理されている学校が、結果的に問題行動（いじめ被害、非行など）が少なくなる（Gottfredsonら, 2005）
- 傍観者を育てるプログラムが最も問題行動を減らす（Fonagyら, 2009）
- 決まりを守ることを褒め、大人が上手にかかわっていくと、落第が減ったりいじめられても助けを求められるようになったりする（Eliotら, 2010）
- 学校では、学習も行動支援も、全てのことが「関係性」の中で動いている。関係性とは、他との関係と言うより、自分たちとの関係性であり、私たち自身が私たち自身への配慮がどの程度できているかが関係していて、これらは、学校の安全、学業成績、社会性や情緒の発達に関連がある（Blumら, 2002他）
- 問題行動への公平な対応、良い教師と生徒の関係は、問題行動を減らす（Gregory & Cornell, 2009他）

26

26

生徒指導の科学的アプローチ

学校風土の影響 つづき

- 教師と生徒の関係、生徒同士の関係が良いことは、自己肯定感と成績に良い影響を与え、うつ病を予防する（Jiaら, 2009）
- 良い学校風土は、学習への意欲を高める。
- 良い学校風土は、共同学習、グループの協力、互いの尊重などを強め、これらは学習環境の直接的な促進として現れる（Finnanら, 2003他）
- 小学校から高等学校まで、全ての学校種で、学校風土と学力は直接的な関係がある（Gottfredson&Gottfredson, 1989他多数）
- しかも、直近の学力だけでなく、数年後の学力まで関係する（Hoyら1998）（社会性、情緒、市民、倫理教育）
- 小学校における人格教育プログラムは、学力に関係する（Benningaら2003）
- 小中学校でのエビデンスのある社会性情緒倫理教育プログラムは、学力に良い影響を与える（Battistichら2004他）

27

27

生徒指導の科学的アプローチ

日本の学校風土研究

- 国内において、学校風土の研究はほとんどない
- 「学級風土」尺度（伊藤ら, 2001, 2017）
主に学級に焦点が当てられている
先生と児童生徒の関係性に関する項目がない
- 学校風土を測定するその他の調査は、尺度としての検証がなされていない

⇒ 日本学校風土尺度を開発

28

28

生徒指導の科学的アプローチ

日本学校風土尺度 (JaSC)

1. 安全

安全	この学校の先生は、いじめなどをしっかりと注意してくれる。 この学校の児童生徒は、この学校にいて安全だと感じている。
決まり	この学校の決まりは納得がいくものだ。 決まりをやぶった時の結果はだれでも同じで納得がいくものだ。 この学校の決まりは、だれに対しても公平だ。

29

29

生徒指導の科学的アプローチ

日本学校風土尺度 (JaSC)

2. 教えと学び (学習)

授業	学校の授業は楽しい。 授業では、クラスの友だちとの間で話し合う活動をよく行っている。 この学校では、授業に集中することができる。 この学校の児童生徒は、授業中何をすればいいか、はっきりと教えてもらっている。
こころの教育	この学校では、他の人の気持ちを理解するための方法を学んでいる。 この学校の先生は、だめなことはだめとはっきり教えてくれる。 この学校では、けんかやいじめなどの問題を解決する方法を学んでいる。 この学校では、イライラしても、上手に気分転換したりストレス解消したりする方法を学んでいる。

30

30

生徒指導の科学的アプローチ

3. 関係性

子ども同士	この学校の児童生徒は、学校の活動を友だちと一緒にすることを楽しんでいる。 この学校の児童生徒は、お互いのことを尊重している。 クラスみんなで協力して何かをやりとげ、うれしかったことがある。
子どもと先生	この学校の先生は、私がうまくできた時に認めてくれる。 この学校の先生は、私たちが困っているときに助けてくれる。 この学校の児童生徒と先生との関係はいい。 私の担任の先生は、私に自信をもたせてくれる。 この学校の先生は、私たちに新しい挑戦をさせたいと思っている。
子どもと学校	この学校の児童生徒は、ここでやるべきことを精いっぱいやっている。 この学校で、私はうまくやれていると感じている。 私はこの学校が好きだ。 この学校には、楽しい活動がたくさんある。
子どもと集団 (多様性・人権)	この学校の児童生徒は、一人一人のちがいを大事にされている。 この学校では、男女とも、同じように大事にされている。 この学校の児童生徒は、クラスの中で、だれでも同じように話したり聞いてもらったりする機会がある。 この学校では、何かを決めたり選んだりするとき、児童生徒が意見を言う機会がある。

31

31

生徒指導の科学的アプローチ

4. 環境

物理的環境	この学校はいつもきれいで片付いている。
地域・保護者	この学校の保護者と先生の関係はいい。 この学校の保護者は、児童生徒の様子について先生と話している。

32

32

生徒指導の科学的アプローチ

JaSC重要項目

- この学校の児童生徒は、一人一人のちがいを大事にされている（多様性の尊重）
- この学校の児童生徒は、学校の活動を友だちと一緒にすることを楽しんでいる（児童生徒同士の関係性）
- この学校の児童生徒と先生の関係はいい（教師の行動）
- 私の担任の先生は、私に自信を持たせてくれる（教師の行動）
- この学校の先生は、いじめなどをしっかりと注意してくれる（教師の行動）

※ 学校風土改善の鍵は、教師の行動が握っている！

33

33

この講座の内容

- 失敗を待つモデルの問題
- RTIモデルとは何か
- 疫学統計学でわかること 子どもの問題の危険因子
- 学校風土の大切さ
- 学校風土向上の方法

34

34

生徒指導の科学的アプローチ

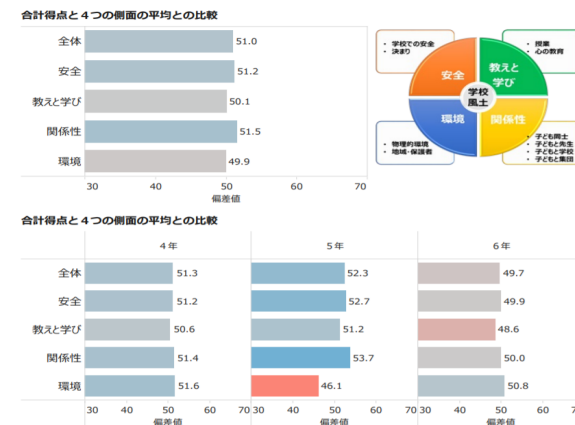
学校風土の改善について

- 学校風土の注目および向上は、我が国においても、子どもの問題および課題の予防に効果がある可能性が高い。
- 学校風土の重要項目から考えると、教師行動の改善が学校風土に直結する可能性が高い。

35

35

生徒指導の科学的アプローチ



36

36

生徒指導の科学的アプローチ

学校風土

- これまでのデータとの比較した結果がわかる。
- 集団が大きくなると平均化される。
- 最初のデータは、ベースラインとして考える。つまり、出発点。
- 当然、担任の影響は大きいですが、前年度までのこと、もともと子どもたちが持つ雰囲気、地域性など、様々なことが影響を及ぼしている。

37

37

生徒指導の科学的アプローチ

学校風土を改善するには？

- 教師の行動を変え、それにより子どもの行動を変える → **行動科学を使う**
- 子どものスキルを高める → **行動科学を使う**

38

38

生徒指導の科学的アプローチ

まとめ

- 子どもの失敗を待つモデルから脱却し、全ての子どもを対象とする予防的支援を行おう。
- RTIモデルは、子どもの行動の問題に対する包括的アプローチ。
- 3層の子どもたちそれぞれに対するアプローチが必要だが、特に質の高い1次支援を忘れてはならない。
- 子どもの問題のリスクを高める危険因子と、未然に防ぐ保護因子の視点から、問題の予防をすることができる。
- よい学校風土は、子どもの発達の保護因子である。
- 学校風土の向上のカギは教師行動。

39

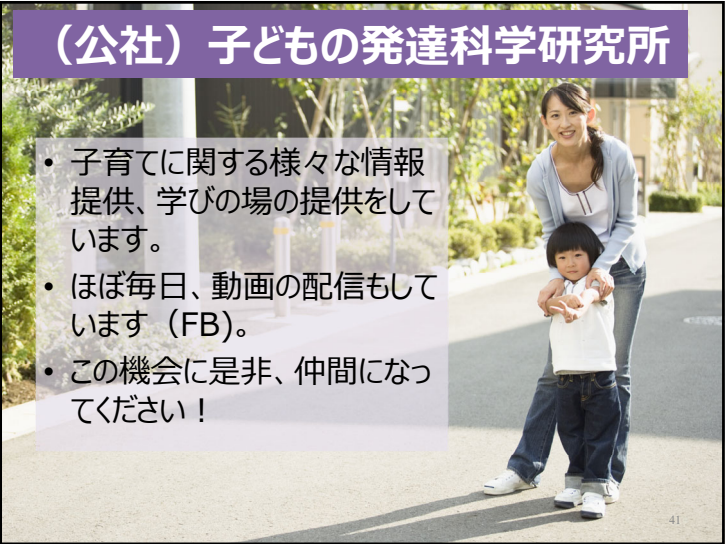
39

確認クイズ

- なぜ、問題行動に対して注意をするだけではだめなのか？
- RTIモデルのターゲットの子どもは？
- 行動・発達上の問題のリスクを下げるものは何か？
- 学校風土とは？

40

40

A photograph of a woman in a light blue cardigan and white top supporting a young child in a white shirt and blue jeans as they walk on a paved path. The background shows greenery and a building. A purple banner at the top left of the image contains the text '(公社) 子どもの発達科学研究所'. A semi-transparent text box on the left side of the image contains a bulleted list.

(公社) 子どもの発達科学研究所

- 子育てに関する様々な情報提供、学びの場の提供をしています。
- ほぼ毎日、動画の配信もしています (FB)。
- この機会に是非、仲間になってください！

41